

山椒は小粒でも…

Vol.12

今日という日に感謝して



石鏡町出身の鳥羽一郎さん、山川豊さん兄弟が歌謡界にデビューされて30数年になります。二人がずっと第一線で活躍されていることは、地元の人たちにとって、とても誇らしいものです。どこへ行っても「兄弟船の…」 「アメリカ橋の…」 ですぐにわかつてもらえます。

その弟の山川さんが、デビュー38年目にして、初めて鳥羽を題材にした、念願のご当地ソングを唄ってくれることになりました。

まずは昨年6月発売の「潮騒」。歌詞の中には、潮騒の舞台となった神島が唄われており、発売を記念して神島の開発総合センターで島のみなさんを前に披露しました。

中学校は違うものの山川さんと私は同じ歳、今年還暦を迎えます。

往復の定期船のデッキでは、二人で答志島を眺めながら、当時の中学校の駅伝大会

で答志スカイラインを走った事など、昔話に花が咲きました。

そして山川さんが船中でも舞台でも繰り返し語ったのは、「鳥羽の強みは食だよ」

「泊まるところは少々古くたっていいんだよ」

「食で観光客を呼ぶんだよ。虜にするんだよ。舌が覚えていくからまた来てくれるんだよ」ということでした。

最後はステージの上から、客席の私を指差しました。「市長わかってくれた？ 頼んだよ！」と。

そして先月「今日という日に感謝して」を携えて、相差町へ。1番の歌詞に石神さんが唄われており、2番の歌詞で真珠島、3番の歌詞では夫婦岩も描かれているご当地ソングです。石神さんの新社殿御造営記念として弘道小学校の体育館でコンサートが開催されました。神島もそうでしたが、合間のおしゃべりがと

ても面白く、イキイキした鳥羽弁丸出しの、とても温かみのある一時間でした。

私は学生時代、東京のアパートでの一人暮らしでした。山川さんは有力新人だったのでしょう、「函館本線」のスポットCMが何度も何度もラジオから流れていました。友人から「ぎんちゃん、この山川豊って鳥羽の人だよ」と教えられるまで知りませんでした。

この同じ東京の空の下で、同郷の同世代が頑張っている。

山川さんは今スタートを切った。

そう思ったら自分も頑張らねば、と勇気付けられたのを今でも鮮明に憶えています。山川さん本人は「演歌だから、ボチボチ、こつこつ、ジワジワ売れてくのがいいんだよ」と話していましたが、いつの日か紅白歌合戦にもこの曲で出てほしいものです。



山川豊さんとの記念撮影



Vol.170

市民課人権・生活係 ☎ 29 1126

「選択的夫婦別姓制度」

結婚した後もお互いの好きな姓を名乗る方が良いと考えるかたが増えていきます。これを「選択的夫婦別姓制度」といいます。

内閣府が今年2月に発表した世論調査では、この制度の導入について「導入しても良い」と考えるかたの割合が過去最高の42.5%に登り、「必要ない」としたかたの割合は、29.3%で過去最低の結果となりました。

現在、日本では民法によって夫婦同姓別姓を選択できる国際結婚の場合を除き、「夫婦は婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」と夫婦同姓が定められており、夫婦のどちらかが姓を変えない限り法律婚は認められていません。

女性の社会進出が進み、労働人口の4割以上が女性であ

る現在、ビジネスシーンで旧姓を使い続ける女性は少なくありません。しかし、パスポートや運転免許証、銀行口座などの姓名は、原則として戸籍名での表記が求められており、結婚に伴って変更手続きを行う必要があります。

また、暮らしの中にある不便を解消するほか、結婚により多くの女性が改姓を強いられることへの不平等感の払拭、家督問題など、さまざまな理由により1990年代ごろから選択的夫婦別姓制度導入の実現が叫ばれてきました。

もちろん夫婦同姓であることで、家族の絆や歴史を感じるかたも多いと思います。しかし、改姓によるデメリットから、婚姻届を出さずに事実婚を貫く夫婦もいる現状では、現在の制度に対して改善を求める声にも納得できません。

選択的夫婦別姓制度導入については「女性の問題」と捉えるかたも少なくありませんが、姓を選ぶ自由は、家族の在り方や基本的な人権にも関わるため、男女に関わらず全ての人の問題でもあります。

「選択的夫婦別姓制度」について、あなたはこう考えますか？